

令和5年度 第3回北九州市発達障害者支援地域協議会

- 1 会議名 令和5年度 第3回北九州市発達障害者支援地域協議会
- 2 開催日時 令和6年3月25日（月）19:00～20:10
- 3 開催場所 北九州市役所本庁舎3階 特別会議室A
- 4 出席者
 - (1) 構成員（敬称略）
中村貴志、倉光晃子、渡辺恭子、尾首雅亮、今本繁、金光律子、北野里香、嶋村美由紀、伊野憲治、藤井敬太郎、古市隆司（計11名）
 - (2) 事務局
障害福祉部長 西尾典弘
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長（発達障害担当課長）角田禎子
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長 西島秀幸
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 主査 福田 稔
- 5 会議次第
 - 【1 開会】
 - 【2 議事】
 - (1) 報告事項
 - ① 強度行動障害支援に関する取組みについて
 - ② ワーキンググループでの検討（最終報告）について
 - (2) 協議事項
 - ① 次年度の取組みについて
 - ② 構成員の任期について
 - 【3 閉会】
- 6 報告事項
 - (1) 強度行動障害支援に関する取組みについて
(事務局)
 - ・前回、北九州市障害者自立支援協議会の中の「地域生活支援者交流会」に位置づけ、強度行動障害に関する事例検討会を行っていることを報告した。今回は、こういった事例を検討したのか、検討の結果こういった課題が出たのか、これらの課題を含め来年度に検討したい事などについて説明する。
 - ・「強度行動障害に関する事例検討について」の「4 実績等」をご覧いただきたい。昨年10月から今年1月までに4つの事例について検討し、2・3月に事例検討の課題も含めて今後取り組むべき支援について検討を始めているところである。具体的な事

例については、「強度行動障害事例検討（地域生活支援者交流会）における検討事例」スライドに沿って説明する。

事例概要①・②及び「強度行動障害に関する事例検討について」の4（3）、5について説明

- ・本日、追加で配布した「強度行動障害を有する者の地域の支援体制イメージ」は、事業所において中核的人材を中心としたチームによる支援を進める中で、困難事例が生じた場合には広域的人材がバックアップできる体制を整備し、緊急時については地域生活支援拠点との連携や医療・教育・その他の関係機関とネットワークを作りながら、地域で支援をしていくようなイメージ図になっている。中核的人材や広域的支援人材は国が養成していく事になっているが、この人材配置によって事業所の報酬にも影響が出るので市としても支援体制を検討していきたいと考えている。

（構成員）

- ・今本構成員に補足説明をお願いしたい。

（構成員）

- ・昨年から、意欲のある小規模事業者の方と強度行動障害児・者への支援について検討してきた。今、国で進めている報酬改定など様々な課題が出てきたが、まずは、強度行動障害などで困っている方を専門的に支援できるスキームを作り、北九州市にある地域資源を活用しながらアウトリーチ支援事業を進めていかなければならない。また、それに付随して事業所の中で基本的な支援の考え方や方法論が浸透しないと実効性がないので、事業所が様々な研修を受けられるよう整備する必要があると考えている。

（構成員）

- ・「強度行動障害に関する事例検討について」の4に「現在の体制でできるアウトリーチ支援について検討する」とある。1つ目の質問は既存の予算内で行うのか？それともアウトリーチ事業ということで新たな予算を確保しているのか？2つ目は、現在の体制と何を指しているのか？3つ目は再来年度に具体的な施策を実行することになると思うが、来年度中に予算要求をして実際にアウトリーチ支援チームを立ち上げるというスケジュールでよろしいか？

（事務局）

- ・1つ目については、令和6年度はアウトリーチ支援事業の予算は組み込めていない。2つ目については、発達障害者支援センター「つばさ」と基幹相談支援センターが連携して事例を把握し、専門的な支援ができる方に相談をしながら一緒に動いてみようと考えている。3つ目については、令和7年度に具体的に予算化したいと考えているので、令和6年度中に実態把握や情報収集し、国の報酬改定の動きも見ながら検討したいと考えている。

（構成員）

- ・令和7年度位に正式なモデル事業が出来れば良いなというイメージか？

（事務局）

- ・そのようなイメージである。

（構成員）

- ・方向性としてはすごく良いと思うが、モデル事業を実施する際には、モデルや検討で

終わるのではなく、きちんと実効性のあるものにして欲しい。また、他の地域にも広げて行こうという視点を忘れないでほしい。

(構成員)

- ・言葉の使い方として、「行動問題」または「行動障害」と使うか、少しばらつきを感じる。専門家で整理をした方が良いと思う。

(2) ワーキンググループでの検討（最終報告）について

(事務局)

発達障害者支援地域協議会「ワーキンググループ」における協議について（報告）に沿って、設置目的、開催実績、協議事項や構成メンバー（別紙1）、検討結果（別紙2）、ワーキングシート（別紙3）について説明。

- ・「発達障害者支援地域協議会「ワーキンググループ」における協議結果について（報告）」「4 今後の取組み」について、3（3）課題1～6は全て取り組まなければならないと考えるが、まず、令和6年度は、ワーキンググループで意見が多かった課題1・2について具体的に取組みたい。併せて、課題3「地域・家族も巻き込んだ支援体制づくり」については、地域の方へ発達障害の理解をもう少し進めていく必要があるということで、啓発などの具体的な取組みについても考えていきたい。最後に、課題4・5。6については、コーディネーターの組織体制に関する事なので、発達障害者支援の専門機関である「つばさ」がどう関われるかも踏まえながら、検討していきたい。

(構成員)

- ・倉光構成員から補足があればお願いしたい。

(構成員)

- ・ワーキンググループは、当事者・家族の方をはじめ、医療・教育・心理・相談等でコーディネータ的役割を果たしている方々で構成された。当事者・家族からは、こういった支援を必要としているので、こういうサービスにつなげて欲しいと窓口に問い合わせるが、なかなかスムーズに繋がらない、また、支援者からはコーディネーター役として他の機関に繋いで協働支援をしたいのに、なかなかうまく繋がらないなど、たくさんの意見をいただいた。
- ・円滑に必要な支援・サービスに関する情報が当事者や家族に届き、効果的な支援がその方に提供されるために、コーディネーターの役割・必要な支援力等について協議した結果、色々な要素が入ったコーディネータービジョンになったと思う。
- ・コーディネーターの要素として大きく2つある。1つは1サービス機関・組織の中で効果的な支援が提供できるように、内部で支援体制をコーディネートする事、もう一つは、複数のサービス機関と繋がり、複数のサービス支援を調整コーディネートし、かつ、それぞれのサービスのプロセスのその支援過程を足並みそろえてマネジメントしていく事である。そういった状況から、まずは必要な情報を整理しなければならない(課題1)という課題、各々の立場のコーディネーターがどんなことをしているのかを互いに知るために意見交換会や事例検討会を開催したらどうか(課題2)という課題がある。
- ・課題1・2について、発達障害者支援センター「つばさ」は、すでに専門性のある情報を提供したり、研修会や事例検討会を実施しているので、「つばさ」が中心に取り組み

ば着手しやすいのではないかなど意見があった。

(構成員)

- ・ どの場所（機関）にいる人がコーディネーターで、その方はどいうった役割を担っているのか？またコーディネーターは何名位になる予定か？

(事務局)

- ・ 教育機関や障害福祉事業所の支援相談機関にはコーディネーターはいるだろうが、（機関数が把握できないので）何名位かははっきり分からない。ワーキンググループからも意見があったが、一支援者として相談を受けて、次の機関を紹介するだけの方も含めるとコーディネーターの範疇はさらに広がってくる。このような方にも支援力の定義について周知できればと考えている。

(構成員)

- ・ 当事者が窓口にお問い合わせでもスムーズに繋がらないという課題があったが、その理由は、資源に関する知識がないからか？または、当事者の状態が分からないので繋ぎようがないという事なのか？ワーキンググループで掘り下げた議論があれば教えてほしい。

(構成員)

- ・ 特段掘り下げた議論はなかったと思うが、どういった相談機関やサービス機関に繋がたら良いか分からなくて困るという意見は多くあった。それを解決するために、分野・目的ごとに情報を整理した一覧があれば良いのではないかと、また、そのような情報を市や「つばさ」のホームページに掲載すれば他の機関に繋ぎやすいのではないかと、それでも分からなければひとまず専門性が高い「つばさ」に尋ねてみようというルートもあっても良いのではないかとという意見もあった。

(構成員)

- ・ 専門機関はどこに繋がれば良いかわからないということはないと思うが、一般の方は分からない人も多いと思うし、療育センターは知っていても意外と、つばさのことは知らない人や事業所が多いと聞く。

(構成員)

- ・ 「課題3 地域や家族も巻き込んだ支援体制作り」について、今年当会では自閉症を専門家とするコーディネーターではなく災害関連で車中泊に詳しいNPOを呼んで車中泊の練習をしようかと考えている。このように車中泊の練習など具体的な事を通して地域の中に入って行った方が理解者がより広がっていくのではないと思う。実際、分野の違う専門家の話を聞いてみると、ここも巻き込んだらどうか？ここも盛り込んだ方が良いのでは？など、これまで我々が持っていない視点があって、どんどん企画が拡大していった。発達障害以外の分野のコーディネーターとの繋がりも加えた方が良く思う。

(構成員)

- ・ 本当の意味での多職種連携なのかもしれない。

(構成員)

- ・ 検討結果を見ると、「つばさ」が中心になって取り組まなければならないので責任重大だと感じている。「つばさ」のホームページにも各機関の情報を掲載しているページがあるが、どういう方を対象にした機関なのか分かりづらい。まずは「つばさ」のホーム

ページを活用しやすいものに修正して情報を発信したい。また、検討結果にフローチャートやネットワーク図を作成するとあるが、このようなツールがあれば一見して分かるので良いと思う。情報の集約も含め関係機関の意見もいただきながら、どのようなものがよいか検討し作って行きたいと思う。

- ・事例検討を重ね、関係機関が繋がることで、ネットワークができる。また、この機関はこんな事ができるのかという発見などがあると思う。
- ・症状や悩みが重複している人もいるので、一見してもどこに相談してよいか分からない場合は、まず「つばさ」にご連絡いただく事で良いと思う。相談を聞き整理したうえで次の機関に繋げる事やインフォメーションについて力を入れていく。

(構成員)

- ・積極的なご意見をいただいて、心強い限りである。事例を集めていく時に、ただ集めれば何かが見えてくるという訳ではないので事例検討の枠組みを少し整理しておくべき。医療には医療の枠組みがあるし、福祉・教育にも枠組みはあると思う。共通で整理をしたうえで、事例収集をしていき行政施策に繋がるようなコンセプトを引っ張り出してくるという筋道を作る必要がある。

(構成員)

- ・この会議に参加する前にワーキンググループのメンバーである指導主事に、ワーキンググループはどうだったかと話を聞いたところ、当事者の方がちょっとどこかに相談したいなという時に、気軽に相談できる場所が欲しいと言っていたと聞いた。
- ・「北九州市」「相談」で検索すると、一番上に特別支援教育相談センターと出てくるので電話が多くかかってくる。教育機関なので福祉の内容など適切な回答ができないものもあるため、例えば「つばさ」などの窓口があって、そこから適切な機関に案内できるような仕組みができると良い。これまでも一元化と言われているがなかなか実行できていない。
- ・先ほど「つばさ」がホームページに様々な窓口を案内できるネットワーク図を掲載すると言われていたが、この図を相談機関で共有して、同じようにホームページに掲載していれば、相談したい方が適切な窓口を見つけることができると思う。各々の機関で別々にするのではなくて一緒に共通でできることを見つけていけたらよいなと思った。

(構成員)

- ・家族が何に困っているかという点、ここに相談したらよいと書いてあるが、本当に相談してよいのか分からない事。だから、ワンストップで相談した後に「この機関に行ったら良いですよ」ではなく、道筋が見えるまで、最後の支援が繋がるまで伴走支援して欲しいと思っている。紹介されて行ってみたら、「ここは違います」と言われると繋がりが切れてしまう。
- ・家族会などの繋がりがあって、この場合はここに行った方がよいなど、教えてもらえる人であれば良いが、今は両親とも働いている方が多いので、そういった方のためにもワンストップで対応できるような機能を強く望む。

(構成員)

- ・私の意見も全く同じで、この前、コロナの証明書を取りたくて電話をかけたら、そこが、取り方まで全て教えてくれて大変助かった。色々な事を聞いてもこんな簡単に教えてく

れる所があるのだと思った。福祉にはそんな窓口はないのか？何か工夫をしてほしい。

(構成員)

- ・子どもが日々関わるのは、「つばさ」などの施設も含まれるだろうが一番身近でかかわるのは教育機関である。私は高校の教員だが、高校には必ず各学校に1名特別支援教育コーディネーターを指名するようになっている。今回の議事を書いてあるようなこんなに立派な役割を担える特別支援教育コーディネーターは本当に数えるばかりしかない。私も力不足であるので「つばさ」の研修によく参加する。そして、つばさの研修で得た情報を先生方に流すようにしている。ただ、つばさで得た情報を流してもその情報を自分のものにし、日常の教育活動に自主的に生かすという形なので、意欲的な先生に出会わないとなかなか広がっていかない。ただ今年は、色々な機会があり、医師会の先生からいただいた情報も先生方に流したら少し参加人数が増えたので、そういうところからも特別支援教育が広がっていけばいいなと思った。
- ・先ほど自閉症啓発デーの話が出たが、図書館の先生に市の図書館に発達障害のコーナーがあると話をしていたら、生徒向けの図書館だよりも発達障害の特集を組んでくれた。学校全部に配る体制ができたので、何かこんな感じで少しずつ広がっていけばいいと思う。全て「つばさ」任せにすると疲弊し潰れてしまうので、やはり子ども達が頼れるのは私も含めて教育機関だと思うので北九州市教育委員会や福岡県教育委員会等様々な教育関係者との連携が必要だと思う。
- ・うちの子どもは30歳だが、中学校の思い出が深いようで、先日、先生が地元の学校に戻ってきた事を知って電話をしたようだ。地域で楽しい経験をたくさんしないといけないとつくづく思う。

(構成員)

- ・地域での繋がりというのはそういうことかもしれない。長い時間かかるかもしれないけど、日頃の中で作られる。

(構成員)

- ・コーディネーターの役割(別紙2)に相談者(対象者)とあるが、相談者とは当事者の事か？
- ・組織内での中核的な役割という視点で考えると、当事者が所属する集団の困り事をきちんと吸い上げて解決をしていくことや所属集団の中をきちんと意見調整するコーディネーターの役割は大事である。組織内で中核的な役割を担う人材の育成の仕組みについては、課題4で考えていると思うので、ここもしっかりやってほしい。

(構成員)

- ・相談者というのは、対象者だけではなく、直接支援に関わっている方や困りごとを抱えているコーディネーターも含めて相談者としている。
- ・もう一つ、先ほど構成員の皆様からコーディネーターの在り方や、伴走支援についてご意見をいただいたが、ワーキンググループのディスカッションの中では、「つばさ」に当事者等が相談した時には、次はこの機関に相談したら良いと情報提供をするだけではなく、次の機関の担当者に、こういう方から相談があるので、よろしくとバトンを渡せる体制が必要というような意見もあったので補足する。

7 協議事項

(1) 次年度の取組みについて

(事務局)

- ・先ほど金光センター長も言われたが、「つばさ」を中心として、効果的な情報集約・情報発信方法を検討するための検討グループを協議会の下部組織として設置し、検討しながら具体化もできればと考えている。
- ・コーディネーター同士が繋がるために、今ある協議会等の仕組みを活用しながら、意見交換や情報交換をする場について検討したい。
- ・強度行動障害について、具体的な協議の場を続けながら、新しいアウトリーチ支援体制の具体的な取り組みについての検討や実態把握等も行いたい。併せて、来年度も協議会にて報告をし、意見をいただいたうえで修正をしながら進めたい。
- ・今年度は北九州市障害者支援計画の策定があったため会議を3回開催したが、来年度は2回（8月と2月 or 3月）の開催を予定している。

(2) 構成員の任期について

(事務局)

- ・現在、構成員の任期は1年となっているが、発足当初に比べ、体制も落ち着いてきたので2年に変更したい。次は令和6・7年の2年間が任期となるがご検討いただきたい。

(構成員)

- ・一般的には2年間だと思うが、よろしいか？

(構成員一同)

- ・はい

(構成員)

- ・2年ということでご了承いただいた。

8 閉会

- ・部長より挨拶

(事務局)

- ・以上で令和5年度第3回北九州市発達障害者支援地域協議会を閉会する。